オンライン授業でコミュニケーション力の向上
「GIGAスクール構想」で地域・他校とつながる学校！

萩市立佐々並小学校
校長　舩木　美弘
教諭　並河　一起

１　実施に至るまでの経緯

少子化や過疎化が進行する人口減社会を迎える中、小規模校における教育の充実させていくことは大きな課題である。本校も、極小規模そして完全複式学級を抱える学校であり、喫緊の課題となっている。小規模校・複式学級においては、教員一人あたりで受けもつ子どもの人数が少なく、子ども一人ひとりに応じたきめ細かな指導ができる。しかし、少人数であるが故、多様な見方や考え方、感じ方にふれ、自らの考えを広げたり深めたりする経験が不足しがちである。また、限られた交流の中でのコミュニケーション能力の育成には限界がある。確かな学力を支える思考力・判断力・表現力等を育んでいくためにも、小規模校・複式学級の子どもたちにも豊かな言語活動を保障していきたい。

そこで、本校では、平成27年度から平成29年度まで、文部科学省指定「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」の指定を受け、当時としては最新のシステムであるICT機器(テレビ会議システム、タブレット端末)を活用して、本校と隣接である連携校の萩市立明木小学校をつなぎ、協同学習・遠隔合同授業を実践してきた。

さらに、令和２年度からカリキュラムにオンライン授業を位置づけて本格的に開始し、これまで６校とオンライン授業を実施して効果を上げてきた。昨年度は、同じ市の見島小学校と隔週で道徳の授業、市内２校や東広島市の小学校２校と外国語（各６時間）のオンライン授業を実施してきた。また、東広島市教委の支援を受けて、大阪樟蔭女子大学の教授から指導助言を受けることができた。

今後も全校体制で先駆的に実践を重視しながら取り組むことで、操作・活用する教員のスキルアップと児童のコミュニケーション力の向上が期待できると考えている。また地域の先駆的実践推進のモデル校として、他地区や他校にも波及していくことも併せて推進していきたい。

「GIGA スクール構想」の取組を見える化するためにイメージ図を作成した。

２　活動内容

（１）対象者　全校児童１４名

①１・２年（１人・２人）②３・４年（２人・３人）　③５・６年（３人・３人）

（２）教　科　　全教科

道徳科、外国語、社会科（生活科）、総合的な学習の時間が中心

（３）ねらい

小規模校の課題である集団での学習を想定し、他校や異校種とのオンライン授業を通して、多様な意見や考え方に触れ、自分の考えを深め表現することができる教育実践のマネ

ジメントを全校体制で推進していく。

（4）活動の特色

本校の強みであるＧＩＧＡスクール構想（やまぐちスマートスクール構想）を活用した「オンライン授業」をフル活用して　いく。

（5）内容

〇オンライン授業（計画的・段階的に実践）

（オンライン授業実践校の予定）

萩市内小学校→山口県内小学校→県外小学校→（大学）→（海外日本人学校）

※ 現在、萩市立明木小学校、見島小学校、
光市立束荷小学校、
沖縄県宮古島市立狩俣小学校
北海道稚内市立宗谷小学校　　とオンライン授業や交流を進めている。

〇校内研修

オンライン授業の計画、授業研究

オンライン授業運営のためのスキルアップ研修

〇校外研修　　※コロナ禍のため休止

ＧＩＧＡスクール研究会、他校の研修会に参加

〇高齢者との交流

これまで様々な機会に高齢者との交流を行ってきたが、コロナ禍のため直接会って交流することが難しくなった。そこでオンラインを使って双方向の交流を計画して実施する。今年度は、実際に対面で交流できているので、活用の準備を継続している。

３　期待される成果

まだまだ課題が山積みではあるが、先駆的に実践を積み上げていきながら、振り返りも確実に行い、小規模校ならではの機動力を活かして、未来の教育実践システムを構築していきたい。

【児童にとって】

- 多人数による教育的効果
  （多様な意見、交流への意欲）
- 相手意識の醸成、未知の情報への期待
- コミュニケーション力の育成
- 低学年期の学習意欲の向上
- 苦手意識（領域）を克服しようとする意欲
- 交流学習（行事）や中学校進学前の人間関係づくり

【教員にとって】
- 教員相互の学び合い、授業改善、機器の運用スキルアップ
- 問題解決的授業への期待
- 児童の未知の様相の発見

【想定される課題】
- 授業前準備の繁雑さ（時間調整、システム準備、打合せ、提示資料作成）
- 多人数授業の難しさ
- 音声の聞き取りにくさ
- 子どもの意欲を生かした話し合いの活性化が必要
- 教員の意思疎通（授業観、授業スタイル）が必要

４　これまでの実践事例

（１）近隣校とのオンライン授業や交流

①萩市立明木学校

近隣の小学校で同じ中学校区にある。全校児童24名の小規模校である。

〇交流の効果
- 同じ中学校区にあるため、卒業後は一緒になる。修学旅行や宿泊学習を合同で行っているので面識はあるが、卒業前の3学期に親交を深めるために定期的な「合同朝の会」を実施した。それぞれの学校の特色を感じ合うことができた。
- Zoomのブレイクアウトルームを使って、他校の友達と個別に会話することができ

〇課題
- 児童達はすぐに慣れてなじみ合うことができたので、2学期から計画的に実施すればよかった。
- まだ通信状態や機器調子が悪い時も少し見られたが、対応のスキルはアップしている。

〇改善
- 通信や機器のトラブル対応も必要なスキルなので、校内研修などでしっかり研修して対応できるようにしておく。担任一人でセッティングや対応ができるようにしておく。

②オンライン授業で複式解消

３・４年生での光市立束荷小学校とのオンライン授業国語の授業では、本来は複式授業で一人の担任が各学年を交互に指導しているが、２校をオンラインでつなぐことで、２校の２人の担任が学年に分かれて同じ学年の児童での授業を行った。複式解消、担任が常時関わる単式授業にチャレンジした。画面が小さい、声が聞き取りにくいなどの課題もあったが、改善しながら今後も取り組んでいきたい。

③遠い学校とのオンライン交流や授業

7月に沖縄県宮古島市立狩俣小学校とオンラインの交流が始まった。縁があって「海に囲まれた島の小学校」と「山と川に囲まれた山里の小学校」が出会うことができた。１,２００㎞も離れているが、オンラインを通してお互いのよさを伝え、そして新しい発見がたくさんあるすてきな交流になることが期待できる。沖縄舞踊の「エイサー」が披露あった。そして１２月には１,８００㎞離れた北海道稚内市立宗谷小学校とのオンライン交流も始まった。

３学期に３校３千kmをつなぐ「日本縦断オンライン交流」を計画中！

１２月２１日（火）は寒さも緩んでいたが、宗谷小学校とオンライン交流の中で実施した。

午前１１時の気温は

稚内市立宗谷小学校・・－２度

佐々並小学校・・・・・　８度　であった。宗谷小学校の校庭には雪が積もっていて、朝みんなで雪だるまを作ったそうである。ちなみに宮古島市立狩俣小学校は、２１度だったそうだ。。

質問タイムでびっくりする内容があった。

①それぞれのおいしい食べ物は？

（佐々並）ささなみ豆腐　（宗谷）たこ・ホタテ

②学校の周りでよく見かける動物は？

（佐々並）サル・イノシシ（宗谷）アザラシ・トド

③冬休みに楽しみなことは？

（佐々並）雪遊び　（宗谷）スキー・ボード

など、この他にも質問や答えがあり、お互いの様子、特に違いがよくわかった。また、ものすごく離れていることが実感できた。次の交流が楽しみです。オンライン授業も計画しています。

５　今後のビジョン

「オンライン授業」を本校の強みとして、積極的に実践している。各教室にオンライン用パソコン、大型専用カメラ、可動式集音マイクを常備して、いつでもすぐにオンラインができるようにしている。また、それらを担任一人で操作でき、通信や機器のトラブルについても、実践的な校内研修をしっかりと行って迅速に対応できるスキルアップをめざしている。

オンラインは相手のある活動なので、かかわる教員が円滑につながるための交渉力も必要である。教育課程や学習形態、時間調整など始める前に調整しておかないといけないことがたくさんある。また交流校の選定や手続き、計画的な通信機器や環境整備は管理職の役目である。しっかりと教職員をサポートしていきたい。

最先端のICT機器で個別先的な学習が進み、コミュニケーション力を向上させるオンライン授業が持続可能な取組になるように、先進的な視点をもちながら全校体制で進めていきたい。